

国立大学法人北海道大学

北海道大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学への本事業の支援はそれなりの効果を上げていると判断している。一方で、この1年の間にポスト・コロナの働き方へのSIPの事業や、地域中核・特色ある研究大学の支援、また半導体人材育成への取り組みが始まり、新しい次元での北大の評価が必要となるだろう。
- ・着実な大学改革が進んでおり、地域中核のモデルケースとなっている。LRA制度は各地方大学が参考にしているモデルであり、総合知活用の博士育成の観点でも極めて重要な政策。全国に普及させたいモデルであり、政策展開を検討してほしい。
- ・HUAの設置とLRAの配置により、北海道が抱える地域課題の解決を目指す多面的な連携体制が構築された。この体制により、J-PEAKSを通じて創出される研究シーズの円滑な技術移転が期待できる。
- ・道内発のスタートアップ企業数が増加し、「エイレンソウ」による産学官金連携の支援体制も構築されている。
- ・外部資金の獲得額は、着実に増加しており、今後の取り組みに期待したい。
- ・共同研究額や寄付金の増加に伴い、外部資金獲得が順調に増加している点は評価したい。この活動をJ-PEAKSにおいて継続していただきたい。
- ・地域貢献及び社会実装・イノベーション分野での着実な進捗が認められる。J-PEAKSとの相乗効果も実現が期待される。外部資金獲得額は実績目標とも更に積み上げが求められる。

国立大学法人徳島大学

徳島大学

(審査・評価委員の所見)

- ・本事業の支援を検討した際に、地域におけるイノベーションエコシステムへの関わり、とりわけテクニオン・イスラエル工科大学（テクニオン）との関係によって、地域の光産業におけるスタートアップ政策への関与が述べられていた。それがどのように進捗するのかに注視している。
- ・本事業を通じて、四国に設置する大学の中でも、関西との連携強化を進めながら土台が固められたと評価。大学経営や改革はこれから、強みの光工学を更に発展させていきたい。
- ・テクニオンが有する IT、AI 技術を光工学、医学分野と融合させ、高い技術競争力を持つ研究開発へ展開することが期待できる。
- ・外部資金に関する案件数は増加傾向にあり、共同研究に関しては過去最高額を達成している。今後も地域企業等との連携を通じてさらなる外部資金の獲得に期待したい。
- ・徳島国際サイエンス研究所におけるテクニオンとの連携強化により国際研究力強化、JST 共創の場形成支援プログラムの「スタートアップ創出/成長の促進支援」、若手・女性が活躍できる研究環境の確立等、当初の計画通り研究環境強化を進めているが、今後地域活性化にむけて大学がどの分野でどの程度貢献できるかがわかりにくい。J-PEAKS 採択に向けてもう少し具体化が欲しい。
- ・地域貢献、地域との連携は十分とは言えない。外部資金獲得については目立った進捗は認められない。国際連携の進捗は一定程度認められる。

国立大学法人広島大学

広島大学

(審査・評価委員の所見)

- 貴学の Town & Gown 構想が広範囲に大学の経営を変えてきたことを高く評価している。一方で、今後の大学間連携を模索しているとも仄聞する。そのことも確認していきたい。
- Town & Gown 構想を着実に進め、日本製鉄が撤退した呉市などと海洋・海事産業の強化等地域共創し産業を創造する取り組みや半導体拠点としての国際拠点化、一層進めていただきたい。
- OI 本部の設置や「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」の設立により、共同研究件数や外部資金獲得額が着実に増加していることを評価したい。
- 「せとうち半導体コンソーシアム」の活動では、地域企業の具体的な研究開発内容が明示されていないが、成長期待分野への地域企業の参画による半導体産業の集積が望まれる。
- 経済産業省「産学連携推進事業費補助金」への採択や東広島市、広島市、サタケなどからの大型寄付を受けるなど、地域の中核として期待されており、大型共同研究が増加する等良い実績を上げている。J-PEAKS でも半導体を中心とした基礎研究と社会実装の両方の拡大を目指しており、引き続き期待する。
- Town & Grow 構想は具体的進捗が認められる。外部資金獲得実績（特に地域連携に基づくもの）は評価出来る。J-PEAKS を活用した研究力向上に期待したい。

国立大学法人東海国立大学機構

岐阜大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学は、東海国立大学機構との関係性が外部から明確になるよう一層の努力を願いたい。
- ・地域連携体制が強化されたものの、まずは土台作りができたことと評価、今後を期待したい。
- ・「地域展開コーディネーター」を県に派遣し、県との連携を強化することで、県とともに「地方大学・地域産業創生交付金展開枠」に採択された点を評価したい。
- ・外部資金の獲得に関しては、案件数及び獲得額がともに伸び悩んでおり、自治体や企業等への積極的なアプローチが必要と思われる。
- ・研究について、個人研究、チーム型研究、研究拠点形成、国際共同研究と色々な階層に分けて、それぞれに対してマネジメントしている点は評価できる。岐阜市、愛知県とも密着な連携を行っている点が伺え、今後を期待する。
- ・地域との連携、地域貢献には有為な進捗は認められない。外部資金獲得は相応の水準だが、対応策の効果は限定的。研究環境向上は不十分。

国立大学法人信州大学

信州大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学は、とりわけアグリ・水資源との関係によって自治体との密接な連携を作ってきたことを評価しているが、それが地域の新しいイノベーションエコシステムを生み出し、どのように地域において雇用を拡大することに貢献するかが課題だろう。
- ・リカレントスキリング強化を進めており、大学としての役割を着実に果たしている点は評価できる。農 X に関しては、今後の気候変動を含め様々な課題に直面する領域、更に磨きをかけていただきたい。
- ・「農 X 研究の社会実装」をキーワードに農産物の高品質化、高付加価値化の実現、農産加工品出荷額の増大を進めることを計画。得意とする浄水技術やカーボンナノチューブ等の技術も活用、企業との共同研究拡大もすすめており、J-PEAKS を通じてさらに産学連携拡大に期待したい。
- ・社会実装・イノベーションの分野は着実に進捗。結果として外部資金獲得も増加基調。J-PEAKS との“すみ分け”は相応に出来ており、相乗効果がイメージ出来る。

国立大学法人神戸大学

神戸大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学はとりわけ神戸市との密接な自治体協力によって、神戸医療産業都市構想を軸に成果を上げているが、その際に、社会科学的なアプローチを取り入れた大学経営を発展させてきたことを評価したい。
- ・大学ファンドや大学発スタートアップの取り組みを順調に進めているものの、まだ特筆すべき特徴があるわけではなく、少々自己評価が課題である。
- ・自治体との連携強化により、「大学都市神戸 産学官プラットフォーム」による支援体制が構築され、地域企業の参画を促すことで、地域活性化の活動が促進されることを期待したい。
- ・外部資金の獲得に関しては案件数が増加しているが、獲得額の伸びは十分とは言えない。
- ・デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパークの活動に社会科学系を参画させることにより、どのような成果をもたらすのかが不明確である。
- ・「デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク(DBLR)」の構想の下、神戸市、産業界とともに医療機器開発等を進めている。(株)神戸大学イノベーション(KUI)を通じてベンチャーファンド「神戸大学ファンド」を組成、大学発のベンチャー設立も進めている。J-PEAKS でもこの活動を拡大することを期待する。
- ・地域貢献の点では不足感がある。一方イノベーションの分野では成果あり。J-PEAKS で目指すものと本件の目標とのすみ分けが必要。

国立大学法人島根大学

島根大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学の今後は、前学長が率いた「選択と集中」の大学経営を新しい学長と執行部がどのように大学全体の中で新しい流れを作っていけるのかにかかっていると考えている。
- ・材料エネルギー分野の特色を最大限生かす取り組みを進めており評価できる。また、山陰地域の大学としてより地域連携を深め地域産業への貢献を進めている点を評価したい。引き続き期待している。
- ・「たたらプロジェクト」を展開し、県の産業振興の一翼を担い、令和5年度には県とともに「地方大学・地域産業創生交付金展開枠」に採択された点を評価したい。
- ・材料エネルギー学部による地域企業との共同研究は目標を超え順調ですが、「下請型から研究開発型」への転換に資するテーマが数多く創出されること期待したい。
- ・材料エネルギー分野の卓越性を生かし、県とも連携して「人と企業を呼び込み」付加価値の高い産業集積が構築されることを期待する。
- ・外部資金の獲得に関しては、案件数及び獲得額ともに伸び悩んでおり、企業等への積極的なアプローチが必要と思われる。
- ・島根県の支援も受け、材料エネルギー学部の設立に本事業を活用している。実績はこれからだが、「先端マテリアル研究開発協創機構」を設置しており、今後の産学連携拡大に期待する。
- ・地域貢献での進捗は順調。一方で、イノベーションの分野では、まだ成果が十分出ていない。一層の工夫が必要。外部資金獲得についても更なるアクションが必要。

国立大学法人東京農工大学

東京農工大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学は、学長のリーダーシップが大学経営の方向性を明確に変えてきたことは明らかである。一方で、何度も指摘しているが、このような急激な変化を事務部門がどう受け止めていけるのかについては若干の不安を感じている。事務部門の高度専門職化が急務であろう。
- ・大学が民間企業の投資などを有効に活用し、投資戦略を立てている点が評価できる。特に地域への投資により地域産業へのレバレッジを図る戦略には期待。そのための Dejima 社の設計は極めて重要である。
- ・研究成果をグローバル展開していることは評価できるが、当初の構想である多摩地域における大都市近郊農林業の革新を推進できたのかについては疑問が残る。
- ・外部資金の獲得に関しては、案件数、獲得額ともに順調に伸びており、さらに実証研究による投資も獲得している点を評価したい。
- ・多摩循環アグロフォレストリーモデルおよび多摩バイオエコノミーモデル等の構想の下に、(SAF)の原料となる非可食油脂植物の大規模栽培事業等、新しい農林業に関する国際的な大型事業開発・共同研究を進めている点は注目される。さらに世界に類を見ない新しい農林畜産業の循環モデルを構築するとあり、今後に期待したい。
- ・J-PEAKS との連携はデザインされている。地域との連携については、一層の具体的進捗が必要。外部資金獲得は相応だが、令和6年度目標はチャレンジング。全力で達成して欲しい。

国立大学法人豊橋技術科学大学

豊橋技術科学大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学は、高専由来の人材をさらに高度化する技術科学大学ネットワークの要の一つになっている。そのネットワークをどのように充実させていくのか、あるいは、名古屋中京地域での他の大学のネットワークへと参加していくのか、その選択も関心を持って見ていきたい。
- ・社会人リカレントの強化は一程度進んだが、今後持続的な大学の改革につながってはまだないので、今後本事業で培った基盤は有効に活用して次につなげていただきたい。
- ・社会人リカレント教育による工程改善への取り組みは、地域産業の「稼ぐ力（コストダウン）」の向上に大きく寄与していると思う。
- ・自治体の支援（愛知県産業育成事業）による研究シーズについては、地域企業への技術移転を加速させることで、地域産業の技術高度化に寄与することが期待できる。
- ・「技科大テクノブリッジ」が積極的に企業にアプローチを行い、共同研究を推進することで、外部資金の獲得に寄与することを期待したい。
- ・企業とのマッチングファンド方式の共同研究を拡大、自治体から6.73億円/3年の拠出を受ける活動はユニークである。「中小企業イノベーション創出支援プログラム」や、一般社団法人「技科大テックブリッジ」による地域企業との共同開発や社会実装の推進を図る活動も期待できる。まだ本事業による実績が十分挙がっているとは言えないが、今後を期待したい。
- ・社会実装・イノベーションはスタートアップへの取り組みを中心に首肯される。オープンラボ設備の活用などを通じた地域との連携については道半ば。外部資金獲得額の増加の為にもう一段のギアアップが必要。